

二上山の賦一首

三九八五番

射水川いみづかは 行き巡ゆめぐれる 玉たまくしげ 二上山ふたがみやまは 春はる  
花はなの 咲さける盛さかりに 秋あきの葉はの にほへる時ときに  
出いで立たちて 振ふり放さげ見みれば 神かむからや そこば  
貴たふとき 山やまからや 見みが欲ほしからむ 皇神すめかみの 裾廻すそみ  
の山やまの 渋谿しぶたにの 崎さきの荒磯ありそに 朝あさなぎに 寄よする  
白波しらなみ 夕ゆふなぎに 満みち来くる潮しほの いや増ましに 絶た  
ゆることなく 古いにしへゆ 今いまの現をつつに かくしこそ  
見みる人ひとごとに かけてしのはめ